

227第38回土木計画学研究発表会（秋大会）：2008年11月1日～3日（和歌山大学）
セッション討議内容の記録

セッション名：住民参加（2）	
日付：11月 1 日 （ 土 ） 曜日、セッション時間： 15:00 ～ 16:30	
司会者名（所属）：松中亮治（京都大学）	
討 議 内 容	セッション全体： 住民参加のセッションであり、アンケートに回答しないサイレント層の特性、松原創出を事例とした住民参加状況の変遷、ロジックモデルの行政経営への適用といったテーマで発表がなされ、以下に示すように活発な議論がなされた。
	（発表番号） 発表者名（所属）：(25) 小島 文（埼玉大学） 地区交通問題と騒音問題に関する問題意識には相関が高いと思われるが、そのような結果となっていないのは何故かとの質問に対して、移動中か否かにより異なっていると考えられるためであるとの回答がなされた。地区交通に関する設問に対しては、居住地区により回答率に大きな差があるが、問題を感じる場所としては自宅以外と回答している者が多く、騒音問題については逆の結果となっているのは何故かとの質問に対して、当初の想定と異なり、居住地区による騒音認識に差がなかったためと考えられるとの回答がなされた。サイレント層は交通に対して問題がないと考えているとのことであるが、具体的にはどういった意味かとの質問に対して、危険を感じるか否かを尋ねており、問題がないとは危険を感じないとの意味であるとの回答がなされた。
	（発表番号） 発表者名（所属）：(26) 渡邊加奈（九州大学） 松原の植樹の方法や所有者について質問がなされ、松原は管理者である市に寄附され、個々の木に名前やメッセージは付けられていないこと、最初に多く植樹し、ある程度成長した段階で間伐するようにしているなどの回答がなされた。住民参加が時代と共に成熟しつつあるとのことであるが、課題としては何があるのかとの質問に対して、一度限りの参加ではなく継続的に参加できるようにすることが課題であるとの回答がなされた。
	（発表番号） 発表者名（所属）：(27) 神永希（八千代エンジニアリング） ロジックモデルの作成目標は何かとの質問に対して、行政の立場からは評価のためのツールであり、施策・手段を発見するためのツールでもあるとの回答がなされた。住民が施策を選択する際に効率的な施策を選択するというプロセスは入っているのかとの質問に対して、必要ではあるが現在ではそういったプロセスは入っていないとの回答がなされた。目標と手段を整理するモデルであるのは分かるが、モデルとしての特色は何かとの質問に対して、ポートフォリオという形で組合せの比較検討ができる点が大きいこと、また、得られた成果が第5次の総合計画の中に反映される予定であるとの回答がなされた。30年後のまちについてのWSでの意見について質問がなされ、自分たちの次の世代については興味がないとの発言もみられる一方、野菜作りを通じてコミュニティビジネスをしてみようなどという前向きな意見もみられたが、どちらかというと悲観的な意見が多かったとの回答がなされた。